



多様性に富む森林資源

特徴を活かした開かれた国有林の取組と

愛情を持った山づくり



檜山森林管理署 署長

飯塚 充由

時の過ぎるのは早いもので、檜山森林管理署に赴任し、もう一年が過ぎました。北海道勤務は二度目で、最初は「日本で一番寒い町」で知られる陸別町で、管内はエゾマツ、アカエゾマツ、トドマツ等の針葉樹林が広がる「亜寒帯」、一方、当

署は、ブナ林が広がる「冷温帯」に属し、同じ北海道と言えど道東とは全く異なる林相で、渡島半島脊梁部の南西部に広がる約十三万四千畝の国有林を管轄しています。

森林の特徴としては、他署管内には見られない植物



森の巨人たち百選の一つ「乙部の縁桂」

分布上の北限南限が混在し、ブナを主体とした広葉樹林に北限であるヒノキアスナロ・ゴヨウマツ林、南限であるトドマツ林がそれぞれ混生し

て分布しており、さらに、北海道の中でも比較的温暖な気候からスギ、キリの適地とされるなど、多種多様な林相が広がっています。当署では、このような多様性に富む貴重な森林資源の維持管理とともに、特に、平成十五年に設置した「檜



砂坂海岸林

山古事の森」、先輩各位の血のにじむような努力により造成された「砂坂海岸林」、森の巨人たち百選に選ばれた「乙部の縁桂」などをフィールドに、開かれた「国民の森林」の実現に向け、自治体、地域住民と連携した取り組みを行っています。

残りの紙面になります。が、「国有林は山と対話した森林づくりをしている」とい、こんな話しをされたことがありました。反論しそうになりましたが、考えてみると、「どれほど山を歩いているのか、見える部分だけで判断しているのではないか」など自問自答の末、口を閉ざしてしまいました。山の実態は、今日で



檜山古事の森

はGIS（地理情報システム）を活用した衛星画像など、足の代わりとなる優れたものにより把握が可能となりましたが、現地に足を運び目で把握することが愛情をもった山づくりの基本だと考えるこの頃です。